

OSS 普及推進研究会企画セミナー研修報告

2010/02/02 阿辺山 大介

1 . 概要

日時：平成 22 年 1 月 29 日（金） 17:00 ~ 19:00

会場：CSAJ 会議室

講師：寺田雄一 氏

（株式会社野村総合研究所 オープンソースソリューションセンター センター長）

内容：

「オープンソースソフトウェアでシステムの無駄を省け！」

オープンソース「超」入門編～多くのユーザーに使われるオープンソースは？～

オープンソースソフトウェアの活用方法～Enterprise の事例紹介～

質疑応答

2 . 報告内容

1) 前置

1 月 29 日に CSAJ OSS(オープンソースソフトウェア) 普及推進研究会の開かれた「オープンソースソフトウェアでシステムの無駄を省け！」という内容のセミナーを受講致しました。

まずは講師の方の自己紹介から始まりました。講師は野村総合研究所の寺田氏。社内ベンチャーとして OpenStandia という、OSS サポート事業を行っているやり手の方でした。OpenStandia について簡単に纏めると、「オープンソースを用いたシステムのサポートを行う」といったもので、対象のオープンソースはメジャー所の「MySQL」や「Apache」など約 50 種類とのことです。

2) オープンソース入門

そもそもオープンソースとは何なのかという部分からセミナーは開始されました。オープンソースの定義としては言及するとキリがないそうですが、簡単に纏めると、

- ・ソースコードが、インターネット等で公開されているソフトウェア
- ・基本的には無償で利用できる
- ・近年では機能や性能、品質が商用製品と比較しても遜色ないレベルになっている

その他、特徴として再配布の自由や改変の自由について言及されました。

オープンソースにはライセンスというものが存在する。ライセンスとは利用許諾であり、使用するに当って守るべき条項が書かれており、改変した際のソース公開の要否、伝播の必要性有無などの違いが存在する。ソース公開が要となっている場合でも、「自社のみで使用」「システム運用会社で使用」と言った場合は例外となるとのことです。（ Google

の検索システムも Linux を改変して行っているが、公開はしていないそうです）

その後、各種有名なオープンソースの説明を受けたが、ここでは割愛します。

3) オープンソースの導入のメリット・デメリット

オープンソース導入の最大の利点は、やはり「コストの削減」にあるという統計データが提示されました。比較する商用ソフトウェアや OSS 有償サポートの価格によって異なりますが、5 年間コストでいえば 1/2 ~ 1/4 まで削減が可能とのことです。

また、多くの方が感じているデメリットとして「技術的サポートがない」という問題がありますが、現在は様々な有償サポートが存在するので、是非活用して欲しいとも提言されました。

4) オープンソースを用いた開発事例

実際に寺田氏の関わってきた開発事例のいくつかを説明して頂きました。私個人が気になった点は「何故お客様がオープンソース使用に踏み切ったか」。やはり多くはコストの削減が目的でしたが、従来の商用アプリケーションのサポートレベルに不満やベンダーフリー/マルチベンダーなインフラを整えたいなどの声もあり、今後の参考に出来ればと感じました。

また非常に的確で面白い表現だと感じたのが DB サーバの比較でした。商用製品と OSS の選択は「ベンツにするか？カローラにするか？」で表せるとの事です。ベンツは最高レベルの性能をもち、最高レベルの価格をもちますが、多くの人は使いこなせず、買うことができません。カローラは通常使う分には十分な性能で手ごろな価格ですので、費用対効果が高くなるとの事でした。

5) オープンソース世代

オープンソースは現在第 3 世代を迎えているそうです。第 1 世代は 2005 年頃までの Linux 中心の世代。第 2 世代は 2010 年までの MySQL, Tomcat などの OSS ミドルウェア中心の世代。そして第 3 世代ではクラウドの普及を想定し、クラウド上での開発プラットフォームがオープンソースとなり、業界標準の開発プラットフォームになる、との見通しだそうです。

3 . 所感

低成本で仕上げられるという点はシステム開発において十分な魅力になると思う。しかし、それだけに捕らわれず、必要な物を取捨選択できることが一番大事なのだと思う。

以上